



ダウン症っていうのは？



A. 21番目の染色体の数が多いためにおきる症状の総称だよ。

私たちの体の細胞の一つひとつには、22対の常染色体と1対の性染色体の合計23対46本の染色体が備わっているんだ。

このうちの21番目の常染色体が2本ではなくて3本ある状態から引き起こされる症状の総称を「ダウン症候群」と呼ぶよ。

イギリスの内科医、ジョン・ラングドン・ダウンさんが1866年に初めて報告したので、「ダウン症候群(ダウン症)」と呼ばれることになったんだ。

ダウン症では3つのタイプがある、とされているよ。

21番目の染色体が普通では2本のところが3本あるものを標準型(21トリソミー、トリソミー型)と呼んでいてほとんどの人がこのタイプだよ。

3本目の染色体が別の染色体にひっついてるものを転座型、21番目の染色体が2本のもとの3本のものが混じっているものをモザイク型、とそれぞれ呼んでいるんだ。

なぜ染色体が3本になるのか、そのメカニズムや理由は解明されていないよ。

出生率は国や民族などによつての違いはなくて、だいたい800～1000人に1人の割合だといわれているんだ。

男女の比率に差異は無い、とされているよ。

ダウン症があると、心臓や消化器系の疾患、聞こえなど耳に関する障がいを持つことが多いとされているよ。

筋肉の緊張が低いのも特徴で、身体が柔らかい人が多くて環軸椎不安定症なんか成長していく過程で現れてくる可能性もある。

[知的な障がい](#)など、さまざまな合併症が起こる可能性があるんだ。

どの合併症がどの程度の重症度で発症するか、は人それぞれだけど、最近が目覚ましい医学の発展で、多くは幼児期に改善するようになってきているみたいだ。

合併症への対応のため、赤ちゃん時代は数週間とか数か月ごとの受診を指示されることもあるよ。

通院の頻度は成長とともに減っていく傾向にあるみたいだね。

主な就学先として、[地域の小学校の通常学級や特別支援学級、通級指導教室、総合支援学校](#)があるよ。

通常学級では、保育所などと同じように、同じ学年の友達と一緒に過ごすことになるね。

特別支援学級は特別な支援を必要としている子どものための学級のことで、通常の小学校内に配置されているよ。

通級指導教室というのは、普段は通常学級で学んでいるんだけど、週のうちの1～2回ほど通級指導教室に通って、自分の課題に合った授業を受けることが出来るんだ。

通級指導教室は、通っている学校に設置されている場合(自校通級)と、近くの学校に設置されている教室に通う場合(他校通級)のふたつがあるんだ。

総合支援学校は、障がいや難病などのある子どものための学校だね。

通常学級と同様の教科に加えて、子どもの自立する力の養成に目を向けた指導を行う授業もあるよ。

一人ひとりの特性に応じた支援が提供されているんだ。

中学にも、地域の通常学級、特別支援学級、通級指導教室、総合支援学校があるよ。

中学校や高校への進学を機に、通常学級から特別支援学級へ、特別支援学級から総合支援学校へと進路変更する子どももいるんだ。

総合支援学校では、教科学習のほかに卒業後を意識したワークの授業や活動が多くとられているのが特徴だね。

特別支援学級を持たない高校が多い、というのも一因だけど、ダウン症のある子どもの多くは、高校から総合支援学校に進学することが多いようだね。

もちろん、他の受験生と一緒に一般高校の入学試験を受けて、一般の高等学校に進学する人もいるんだ。

[《MENU》](#)

[《ASDってどういうもの？》](#)

[LDってどういうもの？》](#)

2021-12-06 掲載